

身近なところから始めるエシカル消費

学校教育における普及・啓発

地産地消

普及・啓発

徳島県立板野高等学校

所在地：徳島県板野郡板野町川端字関ノ本47
沿革：明治39年板野郡立蚕業学校として設立、
昭和24年徳島県立板野高等学校となる
学科：普通科
生徒数：1年 165名/2年 178名/3年 174名
合計 517名(平成30年5月1日現在)

平成29年度から「Go!Go!エシカル」わくわく徳島プロジェクト「エシカルクラブ」実践校として活動



○事業・活動の概要

徳島県立板野高等学校は、平成29年度からエシカルクラブ設置校として、地産地消を軸に、生徒会、家庭科研究部が中心となり学校全体で活動に取り組んでいる。

同校ではエシカルクラブ設置前から老人ホームや保育園の訪問活動や、四国八十八カ所巡礼のお遍路さんをもてなす「お接待」などに取り組んでいたことから、それらの活動にエシカル消費を関連付けて活動を展開している。

また、同校のある板野町もエシカル消費の普及・啓発について積極的に取り組んでいることもあり、消費生活相談所や鳴門藍住農業支援センターの協力を得ながら、地域と連携して活動の幅を広げている。

○地産地消

生徒に身近で関心の高い地産地消を大きなテーマとして家庭科研究部や茶道部、音楽部が実施している、「お接待」では、お遍路さんに板野町のレンコンを使用したクッキーを振る舞い、余り布を使った巾着を配布し、エシカル消費の普及・啓発を行った。

また、地元の農家に収穫させていただいた鳴門金時を、校内の食堂で豚汁にして振る舞ったり、県産野菜を使った料理講習会を実施し、文化祭で試食とレシピ紹介をするなど、多くの生徒に関心を持ってもらえるよう工夫した。

○エシカル消費啓発演劇

部活動単位で活動することが多く、参加する生徒が限定されがちであったことから、多くの生徒が関心を持つことができるよう、平成30年度の文化祭では、エシカル消費啓発演劇を上演した。エシカルマンがエシカル消費の大切さを訴える内容となっており、シナリオ作成は演劇部が中心となり、生徒会メンバーや教員も一緒になって熱演した。エンディングでは劇と同時に作成した「エシカルマンのテーマ」を合唱し、地産地消、3R、フェアトレードについて歌で訴えた。

文化祭で発表した歌は、高校生向けの内容であったことから、幼児にも分かってもらえるように、「エシカルマンのテーマ(子どもバージョン)」としてリメイクし、さらに現在、動画の作成に取り組んでいるところである。完成した動画は保育園訪問時の利用のほか、イベント等で流して、啓発活動に使ってもらいたいと考えている。

○エシカル消費に関する生徒の声

エシカルクラブ設置による意識の変化について伺った。「参加するまでエシカル消費という言葉が知らなかった。活動を始めてからは、ごみの分別を意識したり、買物の時にフェアトレードマークの付いている商品がないか探してみたりするようになった。家族にもエシカル消費について話すことがある。」

「文化祭で演劇を見てから、無駄なレジ袋は断る等、ごみ問題について考えるようになった。演劇は今後も続けていきたい。エシカル消費について、自分たち生徒が考える時間を持つことが普及・啓発のためには大切だと考えている。」

○今後の取組

活動1年目となる平成29年度は、まず「エシカル消費」という言葉を知ってもらうことから始めた。平成29、30年度と生徒に実施したアンケート結果から、言葉の認知度は高まったことが分かった。しかし、実際にエシカル消費につながる行動には至っていなかったり、行動していてもそれがエシカル消費であると認識していない生徒が多い。平成30年度は「行動につなげてもらうこと」を意識した。そのため、「ごみの分別にしっかりと取り組む」、「地元野菜の消費が地域に貢献する」など具体的な事例を挙げることで、活動リーダーの育成をすることでエシカル消費に対する理解を深めているところである。

公表日：平成31年3月22日 取材：平成30年12月
外部リンク：<http://itano-hs.tokushima-ec.ed.jp/>